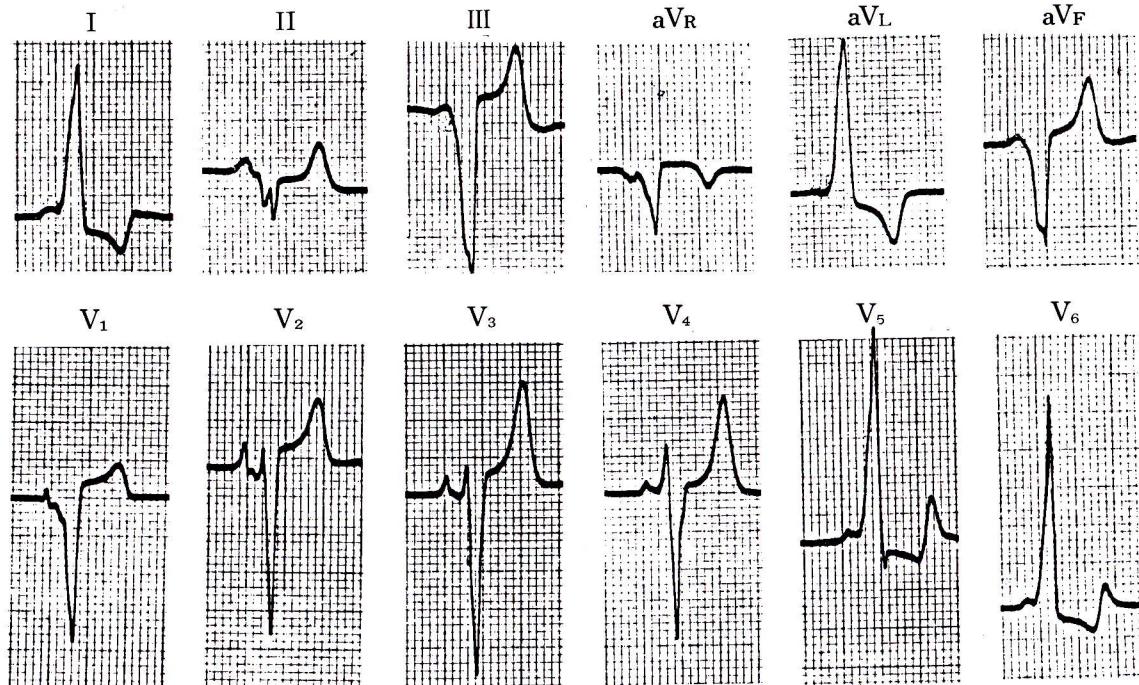


# 症例 34

●24歳 女

- 僧帽弁狭窄兼閉鎖不全症、三尖弁閉鎖不全症の患者である。



- 1) 幅広いQRS波と広範なST, T異常を認めるが何か。

## WPW症候群（B型）

PQ間隔は0.12秒以下、QRS幅は0.12秒以上、QRS波起始部にδ波がみられる。V<sub>1</sub>のδ波は下向きでQRS波がQSパタンであるためB型のWPW症候群である。

左軸偏位、下壁梗塞（II、III、aVFのQSパタン）、左室肥大の基準を満足するが、WPW症候群な

のでとらない。V<sub>5</sub>、V<sub>6</sub>のST低下は2次性変化の可能性が強く、これから心筋障害の有無を判断してはいけない（症例64参照）。V<sub>2</sub>（V<sub>1</sub>）に尖鋭なP波がみられ、右房負荷の存在が示唆される（WPW症候群であってもP波の診断基準は適用してよい）。

### MEMO

#### 〈WPW症候群の分類〉

82

WPW症候群はV<sub>1</sub>のδ波が上向きにできるA型（V<sub>1</sub>でRパタン）と、下向きにできるB型（V<sub>1</sub>でQSパタン）に大別される。

A型では異常伝導路を通る刺激が左室に入り、一方B型では右室に入ると考えられているが、臨床的には差がない。また、A型、B型いずれにも分類できないものもある（WPW C型、V<sub>1</sub>でRSパタン；右図）。

WPW症候群では心室内伝導が正常と異なるため、QRS波、T波に関するすべての診断基準は適用することができない。

WPW症候群C型

